

公益財団法人 日本骨髄バンク 第 103 回 業務執行会議 議事録

開催方法:WEB 会議形式で開催

(本会議を WEB 開催することに関して全理事の同意を得た)

日 時:2025 年(令和 7 年)5 月 16 日(金)17:10～17:40

出 席:岡本 真一郎(理事長)、佐藤 敏信(副理事長)、日野 雅之(副理事長)、
浅野 史郎(業務執行理事)、石丸 文彦(理事)、大西 達人(理事)、鈴木 利治(理事)、
瀬戸 愛花(理事)、高橋 聡(理事)、橋本 明子(理事)
福田 隆浩(理事)、杳沢 一晃(監事)

欠 席:藤井 美千子(監事)

陪 席:細川 亜希子(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室室長補佐)
高波 直樹(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室係長)
栗和田 統真(厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課移植医療対策推進室)
東 史啓(日本赤十字社血液事業本部技術部造血幹細胞事業管理課課長)

事 務 局:小川 みどり(事務局長兼ドナーコーディネート部長兼医療情報部長)
田中 正太郎(総務部長)、関 由夏(移植調整部長)、水口 詞代(広報渉外部長)
鈴木 慶太(広報渉外部TL)、荒井 茂(総務部TL)

(順不同、敬称略)

1 開会

2 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第 6 条により、本業務執行会議が成立した。

3 議長選出

業務執行会議運営規則第 5 条により、業務執行会議の議長は理事長があたるとされ、岡本理事長が議長に選出された。

4 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は、業務執行会議運営規則第 8 条により、議長及び出席した構成員が記名押印する。岡本理事長、佐藤副理事長、日野副理事長、浅野業務執行理事がこれにあたりとされた。

〔議 事〕

1 協議事項(敬称略)

(1)令和6年度事業報告書案について … 小川事務局長

令和 6 年度の事業報告書について、正式な承認は 6 月の理事会であるが、質問や意見をいただき、来月までに反映させたい。以下、報告書案をもとに、重要部分を説明。

- ・ドナー登録者数について、新規登録者は減少したが、10 代 20 代は増えている。年齢別ドナー登録者について 30 才以下が伸びており、プール全体の中でも増えている。

- ・末梢血幹細胞移植(PB)が3割強であるが、増やす方向で考えている。
- ・教育機関でのドナー登録会が増加。学域での実施に注力し、学生の説明員を養成した。
- ・オンライン登録の実現に向けトライアルを実施した。大学イベント会場、語りべ講演会といった現地での採取、それからオンラインでのドナーリクルートを実施。
- ・ドナー休暇制度に関する啓発動画を、研究班とともに作成し、大きな反響があった。リーフレットやホームページを改訂。制度導入の理由としては適合ドナーとなった社員からの相談が最も多かったことから、適合ドナーの勤務先に対し、当法人から制度導入の検討依頼を実施した。適合ドナー本人からの勤務先への相談も促した。
- ・つなげプロジェクトオレンジについて、新ポスターやデジタルサイネージを製作。著名人による応援メッセージも SNS で発信。12 月にイベントを開催し、学生たちに集まっていた。3月の学会総会で、「鈴木おさむと考えるバンクのこれから」を開催し、今後何ができるのか学生自身が考える場を設けた。
- ・公式 X のフォロワー3万人を目指すチャレンジを実施。到達はしなかったが、約1万5千を超えるフォロワーとなり、応援者を増やすことができた。
- ・著名人や企業提供のチャリティーグッズが当たる X チャリティーチャレンジや、100 局以上のラジオ番組でのバンクの紹介も同時に行った。
- ・遺贈寄付のパンフレットや寄付者向けのホームページを改訂した。11 月に寄付者向け報告会をオンラインで開催し、活動報告と寄付者への感謝を伝えた。
- ・住所不明のドナー登録者に対し、ショートメッセージで呼びかけた結果、3204 名が検索対象ドナーに戻った。
- ・コーディネート期間について、骨髄移植(BM)が患者登録から採取まで 121 日、PB 同 114 日で、中央値として約4ヶ月のため、あと1 カ月短縮したいと考えており、特に確認検査までのところを縮めたい。令和7年度はこれに取り組む。
- ・面談をリモートで行う体制構築を進めた。リモートを促進する理由としては、ドナーの拘束時間を少しでも減らす、コーディネーター不足によるコーディネート遅延を解消、コーディネーターがドナーの個人情報を持することによる紛失リスクを下げるなど。
- ・コーディネーターとの面談をリモートで実施するリモート確認検査の体制を整備し、トライアルを実施した。ただし、ドナーが1人で来院することによる調整医師負担増の懸念からか、対応可能な調整医師が不足し、実施件数が限られた。
- ・最終同意面談について、従来、家族が遠い場合に電話で面談に参加していたが、距離に関係なく家族が電話で面談に参加することを可能とした。
- ・家族や立会人等複数人が別の場所から同時に通話できる Voice ミーティング機能を導入した。
- ・電子署名を導入した。これによりリモート面談中の署名完了や、ドナーの個人情報を携帯する機会減少による個人情報漏えいリスク減に繋がった。
- ・30 名ほどの地区代表協力医師に代わり、ドナーコーディネート協力医師を導入し、地区を越えてカバーし合う体制を構築した。初期判定・確認検査判定はドナー適格性判定医師2人、ドナー選定から採取まではドナーコーディネート協力医師約 10 人が担当する。
- ・適合通知を受け取ったドナーから返信がない場合の督促について、適合通知送信の8日後から3日後に早めた。これにより進行可否の判明が早くなった。
- ・調整医師リクルートに関しては、ホームページから申請書を直接ダウンロード、メール添付で申請すれば手続き完了となるよう簡略化した。

- ・ PB の凍結申請運用について、コロナウイルスだけでなく、インフルエンザなど他の感染症であつても凍結申請が可能になった。移植の約 10%が凍結し移植した。
- ・ 採取ドナーの NGS 法 HLA 検査実施率は少しずつ増えており、昨年度は 41%だった。
- ・ コーディネーターブラッシュアップ研修会をオンデマンド視聴形式で開催。
- ・ 初めてアジアパシフィックレジストリー会議が開催され、参加。NMDP 総会と WMDA 会議にも参加し、いずれも日本骨髄バンクの取り組みを紹介した。
- ・ ドナー安全に関しては、BM では実出血量の基準ルールを変更、呼吸機能検査を必須項目から外すという運用変更をした。PB では持続型 G-CSF 導入に伴う改定をした。

(主な意見)

- <岡本> 若いドナーのリクルートの観点から、それなりの実績が出ているのではないかと感じる。スワブトライアルについても症例数は少ないが、今後さらに進んでいってもいいというメッセージと思った。全体の流れを見ても、私たちが進んでいこうとしている方向性は間違っていないので、これをさらに推し進めていくということによろしいのではないかなと思う。
- <大西> すこしずつ若い方が増えてきており、すごく良いこと。ドナーに連絡がつかない場合の対策も聞き、これが半分に減らせるだけでも随分上がってくるかと思うが、実際増えているので、ぜひ少し進めていただけたら良いと思う。
- <日野> 確認検査のリモートについて、負担感を感じられている医師が多いということで、理解をしていただくよう促していきたいと思う。
- <橋本> かつて若いドナーの方が移植成績は良いというのを学会等で証明して欲しいとお願いしたことがある。着実に臨床で経験したことをデータ化してもらい、結果的にこうして若いドナーが増えているということは本当に素晴らしいことだと思う。

(決定事項)

その他、特段意見等なく、次回通常理事会へ提出。

2 報告事項(敬称略)

(1)寄付金報告 … 水口広報渉外部長

令和7年4月度は 849 件、2534 万円の寄付をいただいた。この中には日本生命保険相互会社様の加入者向けサービスである、ずっともっとサービスを通じたご支援の 1976 万円を含んでいる。昨年度で終了したサービスだが、藤井監事にご助力いただき、同サービスへの掲載の機会をいただいたところ。改めてご支援感謝申し上げます。

なお寄付金額が昨年度同月と比べて大きく減っているように見えるが、前年度は 4000 万円の遺贈寄付があったため、今年度の約 2000 万円、それぞれを除くと概ね同じような水準となっている。

<田中> 令和5年 11 月に内閣府から紺綬褒章の対象団体として認定を受けている。紺綬褒章は個人 500 万円以上、企業 1000 万円以上を認定団体に寄付した対象者に対し、審査の上、国から贈呈をされる褒章制度になる。

4月に当法人第1号となる贈呈者が決定した。今回第1号ということで、厚生労働省の皆様、手続き等でいろいろとご協力をいただき、感謝申し上げます。

(2)採取件数・患者登録数報告 … 田中総務部長

令和7年4月の採取件数は国内 BM58 件、国内 PB21 件、国際 1 件、合計 80 件。昨年度同時期より若干少ない。

国内の患者登録者数は 175 名となっており、前年同時期より大きな増加。

(3)調整医師新規申請の報告 … 関移植調整部長

令和7年4月は、新規申請 16 名、異動・辞退 22 名、現在数 1229 名。

(主な意見)

＜岡本＞ 新規申請は比較的若い医師が多いとのことだが、若い医師に担っていただくことはとても良いことである。

(4)その他(文部科学省からの通知文書について) … 水口広報渉外部長

令和7年4月に文部科学省大学振興課長から、学生が骨髄バンクドナー候補となった場合における教育上の配慮についてという通知が、大学、専門学校等のドナーになりうる学生が通っている高等教育機関向けに発出されている。

学生がドナー候補となった場合、学生が十分な学習時間を確保しつつ、少しでも協力しやすい環境を提供するため、必要に応じ、補講、追試の実施やレポートによる学習評価などを行うなど、適切な配慮を講じることを求める内容。

公欠制度がない学生ドナーは、一人一人教授を回って公欠にしてもらうことを、必要な日数やらなければいけない。今学生は忙しいので、このような配慮が非常にありがたいところ。

この通知の発出にあたっては、島根県地区の地区普及広報委員から、地元の衆議院議員に話があり、骨髄バンクも議員からのヒアリング機会をいただき、文部科学省、厚生労働省移植医療対策推進室の皆様は御助力いただきながら、発出となった。移植医療対策推進室の皆様には非常に細やかな対応をしていただいたことを報告する。

(主な意見)

＜岡本＞ 若い人が必要なときに、いろいろなことで配慮いただいたことは本当にありがたい。感謝申し上げます。

(5)その他(ドナー登録者数累計 100 万人について) … 水口広報渉外部長

4 月末においてドナー登録者数の累計が 99 万 8000 人を超えた。5 月中にドナー登録者数が累計 100 万人を突破する予定。これに伴い、6 月に入ってから、プレスリリース SNS の発信、バンクニュース、LINE 等々で発信をし、骨髄バンクの現状や課題への関心を高めて参りたい。

以上